

二木 麻衣子 氏の学位審査結果の要旨

主査： 蔦 幸治

副査： 中邨 智之、村川 知弘

非小細胞肺癌の治療には種々の新規治療薬が登場してきているが未だ予後不良な疾患で有る。本研究では血清マーカーの解析により予後不良因子の推定と血管新生阻害薬の効果予測となるかを検討したものである。

過去の報告から非小細胞肺癌で高値が予測された RANTES、sVCAM-1、sE-selectin、HMGB1、Ang-2、VEGF、PAI-1、PDMP は本研究でも正常対象と比較し高値であったが、単独での予後不良因子とはいえず PDMP、HMGB-1、PAI-1 を組み合わせて評価することで 3 種類とも高値のものは統計学的に有意に予後不良であることが証明された。また、症例数が少なく今後の検討課題であるが、血管新生阻害薬投与前後で sE-selectin、sVCAM-1、PDMP、PAI-1、HMGB1、Ang-2 及び VEGF の有意な変化がみられた。

本研究は比較的侵襲の少ない血清マーカーでの非小細胞癌の予後因子の同定とそれらの血管新生阻害薬の治療効果予測因子の可能性を明らかにした研究で有り学位に値すると考える。